

2021年度海洋教育実施状況報告書

1 実施概要

学校名

糸満市立高嶺中学校

採択活動名

海人科 ～海人が活躍した糸満の海を学び、未来へつなごう～

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 糸満の漁業の歴史と漁具、海を中心とした昔のくらしを見てみよう	1 学年	海人科
2. 帆掛けサバニ体験、ロープワークから糸満の伝統的な漁業を考えよう	1 学年	海人科
3. 学習した事を伝えよう ～北海道網走市とオンライン交流授業～	2 学年	海人科
4. 大度海岸の環境を調査し、環境保全のためにできる事を考えよう	2 学年	海人科
5. 塩づくり体験・海ブドウ収穫体験を通して、糸満の魅力を考えよう	2 学年	海人科

取り組みの概要

今年度は各学年のテーマ（1 学年「地域」、2 学年「環境」、3 学年「持続可能」）を設定した。中学校 3 年間の海洋教育で学んだ事を、これからの糸満市のまちづくりにつなげていけるよう、持続可能な開発目標（SDGs）と関連させた取組を計画し、実施する事が出来た。3 学年の取組については、県内の新型コロナウイルス感染症拡大防止による休校が続いたため実施することが出来なかった。

【1 学年について】

1 学年では、糸満の漁業の歴史と海を中心とした昔のくらしについて、NPO法人ハマスーキが運営している糸満海人工場で体験学習を行った。さまざまな漁具やサバニ、漁師のくらしについて講話を聴き糸満の漁業の歴史について理解を深めることが出来た。また、同施設にある古民家を見学し、糸満の伝統的な家のづくりや、自然環境を活かした家の工夫について学習することが出来た。



伝統的なサバニについて学ぶ



伝統的な家の「工夫」を調べる

1 学年の帆掛けサバニ乗船体験では帆掛けサバニ振興会の協力を得て実施することが出来た。ほとんどの生徒が初めての乗船体験となり、サバニについて理解を深める非常に貴重な体験となった。また、乗船を待つ間にロープワーク実習も行いさまざまな結び方を学習することが出来た。海人工場での学習、帆掛

けサバニ乗船体験などを通して、糸満を支えた海について理解を深めることが出来た。疑問に思った事や考えた事などについて探究に取り組む事が出来た。



ロープワーク体験の様子①



ロープワーク体験の様子②



帆掛けサバニ乗船体験



体験のまとめ新聞①



体験のまとめ新聞②

【2学年について】

2学年では、北海道網走第二中学校と連携したオンライン授業を実施することが出来た。本校では海ブドウやサンゴについて紹介した。網走第二中学校からは流水について発表して頂いた。オンラインの交流を通じて、海の環境の違いについて理解を深める機会となった。



オンライン交流会の様子



オンライン交流会 県内新聞に掲載

2学年では昨年に引き続き、大度海岸の環境調査を行った。魚や貝、藻、ウニ、カニなどの生物に関する調査とゴミの調査を行い、調査した結果を昨年と比較する事が出来た。ゴミの量は減っていたが、その理由は何か？など新たな問いが生まれて探究活動につながった。



海岸調査の様子 ①



海岸調査の様子 ②



海岸調査の様子 ③



海岸調査の様子 ④ (軽石)



海岸の調査の様子 ⑤



漂着ゴミの分類の様子

2学年では、海ブドウ収穫体験・塩作り体験も行った。

特に、海ブドウの収穫体験を通して、糸満市の新たな観光産業の一つとしてもっとアピールするにはどのような取組が必要か? などについて探究活動を行うことが出来た。また、塩づくりでは持続可能な産業として、将来に活かすにはどうしたらよいかなどの探究につながった。



海水を煮詰めて塩を取り出す体験



海ブドウ収穫体験の様子

2 自己評価

【妥当性】

各学年のテーマを設けて糸満の海の理解と、これからの糸満の海についての探究学習を行うことができ、3年間を見通した取組の形ができてきた。また、各学年13時間で取り組み、体験活動にも取り組む事ができ、新たな問いが生まれ、さらに探求が深まった。学習内容の分量は適切だった。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3学年の実施が出来なかったが、1、2年生にとっては教科と関連させた取組ができ、生徒の実態に合った取組ができた。

【有効性】

6月～10月に実施予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため10月～12月に実施したため、比較的気温が下がった時期の実施になってしまったが、1、2年生は、以下の取組ができ、活動費を有効に活用することができた。

（1学年）

糸満の漁業の歴史と海を中心とした昔の暮らしについて体験学習を行い、さまざまな漁具やサバニ、漁師の暮らしについて講話を聴き糸満の漁業の歴史について理解を深めることが出来た。また、帆掛けサバニ振興会の協力を得て「帆掛けサバニ乗船体験」ができた。ほとんどの生徒が初めての乗船体験となり、サバニについて理解を深める非常に貴重な体験となった。

（2学年）

北海道網走第二中学校と連携したオンライン授業を実施し、オンラインの交流を通じて、海の環境の違いについて理解を深めることができた。また、海ブドウ収穫体験・塩作り体験を通して、探究活動を行うことが出来た。

【効率性】

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、当初予定していた6月～10月に実施ができなかったが、活動費を有効活用し、体験活動や講師依頼等ができ、とても充実した活動ができた。

【成果】

教科横断的な取組として、理科・社会科との関連を図って取り組むことができた。

特に2学年では、環境保全の観点と糸満市の魅力（海ブドウなど）について、自主的に探究する生徒が見られた。また、体験の前に事前学習を行い、体験から探究につなげることが出来た。さらに、北海道とのオンライン交流は海洋への関心を高める機会となった。

【持続性】

総合的な学習の時間と国語科と連動して「まとめ」を行い、ワークシートをファイリングし、学習の過程を可視化できるように工夫した。

次年度以降は、総合的な学習の時間でまちづくりのテーマの下で取り組みたい。

【信頼性】

担当職員は海洋教育を担当して3年目になり、他の教員より知識を有しており、趣旨の理解や取組内容の吟味などに取り組む事ができた。

【その他（コメント・感想）】

- 糸満市教育委員会、外部団体などとの連携を十分行うことができた。
- 市役所ロビーでの展示、学校ホームページでの発信などに努めている。
- 生徒の感想等の学級・学年掲示板等での紹介や新聞投稿に努めている。
- 北海道網走市第2中学校との交流の様子を新聞記事に取り上げてもらい、外部へ発信することができた。

3 学校関係者評価

第3回学校運営協議会において、海洋教育に関する行事（北海道網走第2中学校との交流学习・海人科体験学習）の取組の様子を報告した。

第4回学校運営協議会において、「令和3年度学校評価報告書」を提示し、学校の取組について以下のご意見や感想をいただいた。

- 生徒が自分たちの住んでいる環境や行事等について学ぶことはとても重要なので、継続して取り組んで欲しい。
- 今後も地域行事や伝統文化について学びを深め、地域行事にも積極的に参加させて欲しい。
- 「海人科」の取組はとても良い。机上では学べないことを実体験できるので、子どもたちの探求心を育むことができるので良い。